

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	水戸看護専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	看護学科（3年制）	夜・通信	240	240	
	看護学科（通信制）	夜・ <u>通信</u>	180	160	
（備考） 看護学科（通信制） 令和6年度から募集停止に伴い、2年生のみ在籍					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ（ https://www.mito.ac.jp/ ）で公開する。

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	水戸看護専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ（<https://www.mito.ac.jp/>）で公開する。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	相談役	令和6.4.1～ 令和9.3.31	企画
非常勤	取締役営業本部長	令和6.4.1～ 令和9.3.31	コンプライアンス
非常勤	支店長	令和6.4.1～ 令和9.3.31	労務
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	水戸看護専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
*シラバスの作成過程及び時期 10 月 教育課程(案)の内容を検討 11 月 教育課程編成会議において審議 2 月 授業計画(シラバス)の決定 *シラバスの公開時期 毎年 4 月	
授業計画書の公表方法	ホームページ (https://www.mito.ac.jp/) で公開する。
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
・成績の評価は、学科試験及び実習成績により判定する。学業成績は、各授業科目のいずれも 100 点満点とする。A・B・C・D の評語をもって表し、A (80 点以上)・B (70～80 点未満)・C (60～70 点未満) を合格とし、D (60 点未満) は不合格とする。 ・看護学科の実習を含む履修認定については、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席を必要とする。 ・授業計画に成績評価の方法・基準を示したうえで、成績評価のための試験を実施し、実習成果及び授業履修状況を勘案し、学修成果を判定している。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) ・履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。 (100 点満点で点数化) ・下位 4 分の 1 に位置する学生に対して、個別指導等により成績の改善を促す。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	ホームページ (https://www.mito.ac.jp//) で公開する。
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 人間尊重の理念に基づく看護師に関する教育を行い、社会に貢献し得る有能な医療・福祉に関する人材となるため養成することを目的とし、授業を進めていく。 ・修業年限以上を在学していること。 ・学則第 10 条に規定する授業科目及び授業時間数を履修していること。 ・学則第 13 条及び第 14 条に基づいて全科目の単位を取得していること。 ・出席すべき日数の 3 分の 2 以上を出席していること。 以上の要件を満たした学生について認定会議にて検討し、社会に貢献する有能な看護師となる学生を決定する。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	ホームページ (https://www.mito.ac.jp//) で公開する。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	水戸看護専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.mito.ac.jp//
収支計算書又は損益計算書	https://www.mito.ac.jp//
財産目録	学校事務局に備え付け・閲覧及び配布することが可能
事業報告書	学校事務局に備え付け・閲覧及び配布することが可能
監事による監査報告（書）	学校事務局に備え付け・閲覧及び配布することが可能

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報-1

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療分野		医療専門課程	看護学科（3 年制）		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	2,960 単位時間／単位	2,040 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	920 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
120 人		105 人	0 人	14 人	85 人		99 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・シラバスの作成過程及び時期 10 月 教育課程（案）の内容を検討 11 月 教育課程編成会議において審議 2 月 授業計画（シラバス）の決定 ・シラバスの公開時期 毎年 4 月 入学時オリエンテーションにて学生へ配布説明。
成績評価の基準・方法
（概要） ・履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。 (100 点満点で点数化) ・下位 4 分の 1 に位置する学生に対して、個別指導等により成績の改善を促す。
卒業・進級の認定基準
（概要） 人間尊重の理念に基づく看護師に関する教育を行い、社会に貢献し得る有能な医療・福祉に関する人材となるため養成することを目的とし、授業を進めていく。 ・修業年限以上を在学していること。 ・学則第 10 条に規定する授業科目及び授業時間数を履修していること。 ・学則第 13 条及び第 14 条に基づいて全科目の単位を取得していること。 ・出席すべき日数の 3 分の 2 以上を出席していること。 以上の要件を満たした学生について認定会議にて検討し、社会に貢献する有能な看護師となる学生を決定する。
学修支援等
（概要） 入学時に学業特待制度・資格特待制度があり、評定平均が 3.5 以上の者は 4 科目（国語・数学・英語・作文）の試験を受け、成績によって授業料を免除する。また、各種資格を取得している者は授業料の免除がある。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
39 人 (100.0%)	0 人 (%)	37 人 (94.9%)	2 人 (5.1%)
（主な就職、業界等） 病院			
（就職指導内容） 求人紹介、病院見学、病院説明会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 看護師国家試験の受験資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
116 人	4 人	3.4%
（中途退学の主な理由） 体調不良、進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生個人や保護者との面談、スクールカウンセラー設置		

①学科等の情報-2

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療分野		医療専門課程	看護学科（通信制）					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	3,060 単位時間／単位	2,340 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	720 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
300 人		96 人	0 人	7 人	1 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） ・シラバスの作成過程及び時期 10 月 教育課程（案）の内容を検討 11 月 教育課程編成会議において審議 2 月 授業計画（シラバス）の決定 ・シラバスの公開時期 毎年 4 月 入学時オリエンテーションにて学生へ配布説明。	
成績評価の基準・方法	
（概要） ・履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。 （100 点満点で点数化） ・下位 4 分の 1 に位置する学生に対して、個別指導等により成績の改善を促す。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 人間尊重の理念に基づく看護師に関する教育を行い、社会に貢献し得る有能な医療・福祉に関する人材となるため養成することを目的とし、授業を進めていく。 ・修業年限以上を在学していること。 ・学則第 10 条に規定する授業科目及び授業時間数を履修していること。 ・学則第 13 条及び第 14 条に基づいて全科科目の単位を取得していること。 ・出席すべき日数の 3 分の 2 以上を出席していること。 以上の要件を満たした学生について認定会議にて検討し、社会に貢献する有能な看護師となる学生を決定する。	
学修支援等	
（概要） 本校通信学習への学習相談は、開校時の直接面接指導の他、学生の希望に応じて電子メール、電話、FAX 等を活用し対応している。カリキュラム外の国家試験対策として、Web 受験対策講座の提供や、学生個々に対して担当の教員を配置し学修状況を継続的に把握のうえ、年 2 回以上の学習相談会を設けている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
115 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)	106 人 (92.2%)	9 人 (7.8%)
（主な就職、業界等） 病院、診療所、福祉施設など			
（就職指導内容） 求人紹介、病院見学、病院説明会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 看護師国家試験の受験資格			
（備考）（任意記載事項） 令和 6 年度から募集停止に伴い、2 年生のみ在籍			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
212 人	1 人	0.5%
（中途退学の主な理由） 学業不振		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生個人や保護者との面談、スクールカウンセラー設置		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
看護学科 (3 年制)	150, 000 円	630, 000 円	707, 000 円	その他 (施設設備費、実習費、教材費、実習着代、模擬試験料、学校行事費)
看護学科 (通信制)	100, 000 円	420, 000 円	100, 000 円	その他 (施設設備・実習費、通信費、保険費、教材費、国家試験対策模擬試験費)
修学支援 (任意記載事項)				
学業特待制度…試験を受け、結果により授業料の免除				
資格特待制度…取得資格により授業料の免除				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ (https://www.mito.ac.jp/) で公開する。		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
学校自ら自己評価を行うとともに、病院・福祉施設他業界団体が委員として参画する学校関係者評価を実施・公表し、評価結果に基づき学校運営体制の改善を図る。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
医療法人 蔦会 アイビークリニック	2022 年 2 月 1 日～2027 年 3 月 31 日	企業等
独立行政法人 国立病院機構 水戸医療センター	2022 年 2 月 1 日～2027 年 3 月 31 日	卒業生
特定非営利活動法人 だいち	2022 年 2 月 1 日～2027 年 3 月 31 日	地域住民
茨城大学 大学院教授	2022 年 2 月 1 日～2027 年 3 月 31 日	学識経験者
常磐大学 准教授	2022 年 2 月 1 日～2027 年 3 月 31 日	学識経験者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ (https://www.mito.ac.jp/) で公開する。		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ (https://www.mito.ac.jp/) で公開する。
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H108320100158
学校名（〇〇大学 等）	水戸看護専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人八文字学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		12人	12人	14人
内 訳	第Ⅰ区分	－	－	
	第Ⅱ区分	－	－	
	第Ⅲ区分	－	－	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				14人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下）	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	0人	0人	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

○令和5年度

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	看護学科(通信制)	学年	1	学生数	97	
成績の分布						
指標の数値	～50点	50 ～60点未満	60 ～70点未満	70 ～80点未満	80 ～90点未満	90 ～100点
人数	3	0	0	5	50	42
下位 1／4に該当する人数 25 人						
下位 1／4に該当する指標の数値 87.3 点以下						

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	看護学科(通信制)	学年	2	学生数	115	
成績の分布						
指標の数値	～50点	50 ～60点未満	60 ～70点未満	70 ～80点未満	80 ～90点未満	90 ～100点
人数	0	0	0	5	69	41
下位 1／4に該当する人数 29 人						
下位 1／4に該当する指標の数値 85.8 点以下						

実務経験のある教員等による授業科目

看護学科（3年制）

シラバス提出分授業時数 240時間

区分	教育内容	科目名	配当 年次	単位	授業 時数	実務経験	シラバス 提出
基礎分野	科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解	論理的思考	3	1	30		
		物理学	1	1	15		
		情報科学と統計	3	1	30		
		哲学	1	1	30	有	認定心理士5年以上
		倫理学	1	1	15		
		心理学	2	1	30	有	認定心理士5年以上
		家族と社会	1	1	30		
		教育学	1	1	30		
		人間関係論Ⅰ（コミュニケーション）	1	1	30	有	認定心理士5年以上
		人間関係論Ⅱ（討議法）	2	1	15	有	認定心理士5年以上
		人間関係論Ⅲ（カウンセリング）	2	1	30	有	認定心理士5年以上
		健康と障がい	1	1	15	有	医師5年以上
		臨床英語の基礎	3	1	30		
		ビジネスマナー	1	1	15		
		小計		14	345		30
専門基礎分野	人体の構造と機能	生化学	1	1	30		
		解剖生理学Ⅰ	1	1	30		
		解剖生理学Ⅱ	1	1	30		
		解剖生理学Ⅲ	1	1	30		
		解剖生理学Ⅳ	1	1	15		
	疾病の成り立ちと回復の促進	薬理学の基礎	1	1	30	有	薬剤師5年以上
		微生物学	2	1	30	有	医師5年以上
		栄養学	2	1	30	有	管理栄養士5年以上
		疾病理解の看護学的視点	1	1	30	有	看護師5年以上
		病態生理学（診断と治療・がんの診断と治療）	1	1	30	有	医師5年以上
		臨床病態学Ⅰ（呼吸器・循環器疾患）	1	1	30	有	医師5年以上
		臨床病態学Ⅱ（血液・造血器、消化器疾患）	1	1	15	有	医師5年以上
		臨床病態学Ⅲ（腎・泌尿器、内分泌、皮膚疾患）	1	1	15	有	医師5年以上
		臨床病態学Ⅳ（運動器疾患とリハビリ、眼科耳鼻科、脳神経疾患）	1	1	15	有	医師5年以上
		臨床病態学Ⅴ（精神障害）	1	1	15	有	医師5年以上
		臨床病態学Ⅵ（小児・女性生殖器）	1	1	30	有	医師5年以上
	健康支援と社会保障制度	医療概論	1	1	15	有	医師5年以上
		社会保障制度の基本と社会保険制度	3	1	15		
		公衆衛生	3	1	30	有	医師5年以上
		関係法規	3	1	30		
		社会福祉Ⅰ（日本の保健医療福祉）	2	1	15		
		社会福祉Ⅱ（日本の保健医療福祉の実践）	3	1	15		
		小計		22	525		150
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	1	30	有	看護師5年以上
		共通基本技術（コミュニケーション・記録・報告・観察・感染予防・指導技術）	1	1	30	有	看護師5年以上
		生活援助技術Ⅰ（環境・事故防止）	1	1	30	有	看護師5年以上
		生活援助技術Ⅱ（食事・排泄）	1	1	30	有	看護師5年以上
		生活援助技術Ⅲ（活動・休息・姿勢）	1	1	30	有	看護師5年以上
		生活援助技術Ⅳ（清潔・衣生活）	1	1	30	有	看護師5年以上
		診療援助技術Ⅰ（検査・診察・採血等）	1	1	30	有	看護師5年以上
		診療援助技術Ⅱ（与薬）	1	1	30	有	看護師5年以上
		臨床看護総論	1	1	30	有	看護師5年以上
		フィジカルアセスメント	1	1	30	有	看護師5年以上
		看護過程	1	1	30	有	看護師5年以上

区分	教育内容	科目名	配当 年次	単位	授業 時数	実務経験	シラバス 提出
専門分野	地域・在宅看護論	在宅看護論（概論）	2	1	15	有 看護師5年以上	
		暮らしを支える看護Ⅰ（生活を支える看護）	2	1	30	有 看護師5年以上	
		暮らしを支える看護Ⅱ（生活を支える地域包括ケアシステム）	2	1	15	有 看護師5年以上	
		家族看護学	2	1	15	有 看護師5年以上	
		在宅療養を支える看護Ⅰ（在宅看護技術）	2	1	30	有 看護師5年以上	
		在宅療養を支える看護Ⅱ（看護過程）	2	1	30	有 看護師5年以上	
	成人看護学	成人看護学概論	1	1	30	有 看護師5年以上	
		成人看護学Ⅰ（急性期）	2	1	30	有 看護師5年以上	
		成人看護学Ⅱ（周手術期）	2	1	30	有 看護師5年以上	
		成人看護学Ⅲ（回復期・リハビリ期）	2	1	30	有 看護師5年以上	
		成人看護学Ⅳ（慢性期）	2	1	30	有 看護師5年以上	
		成人看護学Ⅴ（終末期）	2	1	30	有 看護師5年以上	
	老年看護学	老年看護学概論	1	1	15	有 看護師5年以上	
		老年看護学Ⅰ（高齢者の生活を支える看護）	2	1	30	有 看護師5年以上	
		老年看護学Ⅱ（高齢者のヘルスアセスメント）	2	1	15	有 看護師5年以上	
		老年看護学Ⅲ（高齢者への援助技術）	2	1	15	有 看護師5年以上	
		老年看護学Ⅳ（看護過程）	2	1	15	有 看護師5年以上	
	小児看護学	小児看護学概論	2	1	15	有 看護師5年以上	
		小児看護学Ⅰ（精神障害をもつ小児の生活と看護）	2	1	30	有 看護師5年以上	
		小児看護学Ⅱ（病児の看護）	2	1	30	有 看護師5年以上	
		小児看護学Ⅲ（看護過程）	2	1	15	有 看護師5年以上	
	母性看護学	母性看護学概論	2	1	15	有 看護師5年以上	
		母性看護学Ⅰ（人間の性と生殖）	2	1	15	有 看護師5年以上	
		母性看護学Ⅱ（マタニティサイクル）	2	1	30	有 看護師5年以上	
		小児看護学Ⅲ（周産期の援助技術）	2	1	15	有 看護師5年以上	
		小児看護学Ⅳ（看護過程）	2	1	15	有 看護師5年以上	
	精神看護学	精神看護学概論	2	1	15	有 看護師5年以上	
		精神看護学Ⅰ（精神の看護に共通する技術）	2	1	30	有 看護師5年以上	
		精神看護学Ⅱ（精神障害のある対象の看護）	2	1	30	有 看護師5年以上	
		精神看護学Ⅲ（看護過程）	2	1	15	有 看護師5年以上	
	看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ（チーム医療と他職種連携）	3	1	15	有 看護師5年以上	
		看護の統合と実践Ⅱ（看護研究）	3	1	30	有 看護師5年以上	
		看護の統合と実践Ⅲ（看護技術の統合）	3	1	30	有 看護師5年以上	
		看護の統合と実践Ⅳ（多重課題）	3	1	30	有 看護師5年以上	
		看護マネジメント・医療安全	3	1	30	有 看護師5年以上	
		災害看護と国際看護	3	1	30	有 看護師5年以上	
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	1	40	有 看護師5年以上	
		基礎看護学実習Ⅱ	1	1	40	有 看護師5年以上	
		基礎看護学実習Ⅲ	1	2	80	有 看護師5年以上	
		基礎看護学実習Ⅳ	2	2	80	有 看護師5年以上	
		地域の実習	3	2	80	有 看護師5年以上	
		地域・在宅看護論実習	3	2	80	有 看護師5年以上	
		成人・老年看護学実習Ⅰ	2・3	2	80	有 看護師5年以上	
		成人・老年看護学実習Ⅱ	2・3	2	80	有 看護師5年以上	
		老年看護学実習	2	1	40	有 看護師5年以上	
		小児看護学実習Ⅰ	2	1	40	有 看護師5年以上	
		小児看護学実習Ⅱ	3	1	40	有 看護師5年以上	
		母性看護学実習	3	2	80	有 看護師5年以上	
		精神看護学実習	3	2	80	有 看護師5年以上	
		看護の統合と実践実習	3	2	80	有 看護師5年以上	
	小計			70	2090		60
	合計			106	2960		240

実務経験のある教員等による授業科目

看護学科（通信制）

※募集停止に伴い、1学年の在籍なし

2年次

シラバス提出分授業時数 180時間

区分	教育内容	科目名	配当 年次	単位	授業 時数	実務経験		本校教員担当		
								単位	授業 時数	シラバス 提出
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考	1年	2	90	有	臨床心理士5年以上	-	-	
		情報科学	1年	2	90	有	臨床心理士5年以上	-	-	
	人間と生活・社会の理解	心理学	2年	2	90	有	臨床心理士5年以上	-	-	
		社会学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
	小計				8	360			0	0
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		栄養学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		微生物学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		薬理学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		社会福祉	2年	2	90	有	介護福祉士5年以上	2	90	
小計				14	630			2	90	
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		看護の共通基本技術	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		看護過程の基礎	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		日常生活の援助技術	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		診療に伴う援助技術	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		地域包括ケアシステムを支える看護	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		地域包括ケアシステムを支える看護の実際	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		訪問看護の実際	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	成人看護学	成人看護学概論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		成人看護学方法論	1年	2	90	有	看護師5年以上	2	90	
	老年看護学	老年看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		老年看護学方法論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	小児看護学	小児看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		小児看護学方法論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	母性看護学	母性看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		母性看護学方法論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
	精神看護学	精神看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		精神看護学方法論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	看護の統合と実践	看護管理	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		医療安全	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		災害・国際看護	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
	基礎看護学実習	基礎看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		基礎看護学実習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	地域・在宅看護学実習	地域・在宅看護論事例演習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		地域・在宅看護論実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	成人・老年看護学実習	成人・老年看護学事例演習Ⅰ	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		成人・老年看護学実習Ⅰ	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		成人・老年看護学事例演習Ⅱ	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		成人・老年看護学実習Ⅱ	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	小児看護学実習	小児看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		小児看護学実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	母性看護学実習	母性看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		母性看護学実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	精神看護学実習	精神看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		精神看護学実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	看護の統合と実践実習	看護の統合と実践事例演習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		看護の統合と実践実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	小計				46	2070			32	1440
合計				68	3060			34	1530	180

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：認定心理士 5 年以上
授業科目： 人間関係論 I（コミュニケーション）	単位（時間）： 1 単位（30 時間）
授業担当： 小幡 知史	開 講 時 期： 1 年次 前期
科目の概要・目的	
看護師同士、看護師と患者との関係、看護師と医師との関係、看護師と医療従事者との関係など、さまざまな人との関係にとって大切なことは、どのように話すか、即ちコミュニケーション技術とスタイルである。自分自身のコミュニケーション技術の傾向を知り、コミュニケーション技術の向上を目指す。また、自己啓発の一助にしていく。	
対象との関係性を築くための、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。	
学習の到達目標	
1. 自分をよく知る	
2. コミュニケーションの、それぞれ違ったスタイルを見分ける	
3. 気づいた事柄をよりはっきりと、直接的に率直的に表現できるような技法を身につける	
4. 相手の言うことを正確に聴き、理解するための技法を身につける	
5. 自分とパートナーの、自尊心を養うための技法を身につける	
6. あることについての、話のきっかけをつくる技法を身につける	
学習概要（授業計画）	
1. カップル・コミュニケーション	10～12. 信頼関係の構築
2～4. 自己への気づき	13～14. まとめ／発表
5～6. 他者への気づき	15. まとめ・終講試験
7～9. コミュニケーションの型	
学習上の注意	
成人・家族と看護専門職としてのコミュニケーションは異なると理解することから始まる。話を聞く、相手の気持ちを考えた対話ができる、コミュニケーション障害のある対象への対話テクニックと段階的に難易度を上げ模擬実践しながら看護専門職としての技術を学ぶ。	
成績評価の方法	
終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。	
使用テキスト	
講義の際に資料提示する	
参考図書	
1. 河津良子・河津雄介著：エクササイズによる看護のための自己開発，ナカニシア出版	
2. 系統看護学講座 基礎看護学 I 医学書院	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：薬剤師 5 年以上
授業科目：薬理学の基礎	単位（時間）：1 単位（30 時間）
授業担当：大谷 俊裕 他	開 講 時 期：1 年次 前期
科目の概要・目的 看護師の薬物療法への理解が十分あることは、治療効果を高めることにつながる。薬物の生体への作用を知り、安全で効果的な薬物療法が提供できるよう、看護師として必要な知識について学ぶ。また、医師・薬剤師・看護師の連携についても学ぶ。 薬物療法の効果を高めるための、薬物に対する基本的な知識を身につけることを目的とする。	
学習の到達目標 1. 薬物に対する、生体の応答（作用・有害作用）について理解する 2. 生体の状態を調整する、輸液・輸血について理解する 3. 主な薬剤に対する服薬指導、看護のポイントを理解する 4. 処方箋や添付文書の読み方について理解する	
学習概要（授業計画） 1. 薬理学とは 2～3. 神経系に作用する薬 4. 呼吸器系に作用する薬 5～6. 消化器系に作用する薬 循環器系・血液に作用する薬 7～8. 炎症・免疫系に作用する薬 抗感染症薬	9. 泌尿器系に作用する薬 10～11. 内分泌系に作用する薬 12～13. 抗腫瘍薬 14. 目に作用する薬 15. まとめ・終講試験
学習上の注意 薬の効能書をもとに薬の作用や使用方法の実際を理解する	
成績評価の方法 1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する	
使用テキスト いちばんやさしい薬理学 成美堂出版	
参考図書 1. 堀坂和敬、木皿憲佐訳：問題を中心とした薬理学 廣川書店 2. 高久史麿修：治療薬マニュアル 医学書院 3. 新体系看護学全集 薬理学 メヂカルフレンド社	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上								
授業科目： 疾病理解の看護学的視点	単位（時間）： 1 単位（30 時間）								
授業担当： 柴田 順子	開 講 時 期： 1 年次 後期								
科目の概要・目的 看護実践の場では、チーム医療を推進して看護師が役割をさらに発揮するため、高度な看護実践能力が「特定行為」として認められるようになった。「特定行為」とは医師にしかできなかったことを看護師でもできることである。そのために習得すべき要素として、臨床で使える解剖学・生理学・病理学・薬理学やフィジカル・イグザミネーションが挙げられ、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を包括的に判断できる知識と技術を習得することが必要となる。本科目では、これらの要素を看護の視点でとらえることが看護実践力に結びつくことを理解し、思考過程及び判断過程の知識を身につけることを目的とする。									
授業の到達目標 1. 看護師が適切に臨床実践を行うに際し、対象の身体的情報を的確にとらえ、臨床場面における臨床推論の思考過程を踏まえてアセスメントした結果としての臨床判断に結びつけていくことの必要性を理解できる。 2. 臨床推論、臨床判断の基本的な考え方について理解できる。 3. 臨床場面において、症例に対する情報収集を主体的に行うことができる。 4. 臨床場面において、重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントできる。 5. 多様な臨床場面において必要な治療を理解し、ケアを導くことができる。									
学習概要（授業計画） <table border="0"> <tr> <td>1～2. 臨床推論と臨床判断</td><td>5～6. 事例 1 発表</td></tr> <tr> <td>・ 臨床推論と臨床判断の違い</td><td>7～12. 臨床判断演習（事例 2：グループワーク）</td></tr> <tr> <td>・ 臨床判断に必要な看護の視点</td><td>13～14. 発表とリフレクション</td></tr> <tr> <td>・ 臨床推論技法の種類と展開</td><td>15. まとめ・終講試験</td></tr> </table> 3～4. 事例検討の基礎（事例 1：個人ワーク）		1～2. 臨床推論と臨床判断	5～6. 事例 1 発表	・ 臨床推論と臨床判断の違い	7～12. 臨床判断演習（事例 2：グループワーク）	・ 臨床判断に必要な看護の視点	13～14. 発表とリフレクション	・ 臨床推論技法の種類と展開	15. まとめ・終講試験
1～2. 臨床推論と臨床判断	5～6. 事例 1 発表								
・ 臨床推論と臨床判断の違い	7～12. 臨床判断演習（事例 2：グループワーク）								
・ 臨床判断に必要な看護の視点	13～14. 発表とリフレクション								
・ 臨床推論技法の種類と展開	15. まとめ・終講試験								
学習上の注意 1. 個人ワーク・グループワークが学習の中心となる。自ら積極的に考え、学ぶ姿勢をもって臨むこと。 2. 学生個々の実践能力を高めるため、他学生・他グループの発表に対するリフレクションにも積極的に参加すること。									
成績評価の方法 ミニテスト、終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する									
使用テキスト 自作資料									
参考図書 1. ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち①病態生理学 山内豊明編 メディカ出版 2. 病態・疾患学 病態生理から治療までわかる 林洋著 羊土社 3. アセスメントに自信がつく臨床推論入門 小沢和子編 メディカ出版 4. 臨床判断ティーチングメソッド 三浦友理子・奥裕美著 医学書院									

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師 5 年以上												
授業科目： 病態生理学 (診断と治療・がんの診断と治療)	単位（時間）： 1 単位（30 時間）												
授業担当： 武島玲子／高屋敷典生	開 講 時 期： 1 年次 前期												
科目の概要・目的 臨床病態学は医学を理解する基礎となる学問である。臨床病態学Ⅰでは、正常状態との比較において病的な状態、つまり、病気の成り立ちや、身体内での病的変化が、実際にはどのようなものであるかを学習する。医学用語に慣れ、これらの知識を自分のものにして、看護の実践力にしていく。 本講義では病気の成り立ちと医学診断に必要な検査、主な治療方法について学ぶ。また、死亡率、有病率とも高いがんの診断と治療について理解し、現代医療の知識を深める。 病気の成り立ちと、主な診断法・治療法を理解することを目的とする。													
授業の到達目標 1. 病気の原因・誘因を理解する 2. 身体の中で、どのような変化が生じているのか理解する 3. 疾病予防について理解する 4. 疾病の診断法や治療法および、検査を理解する 5. がんの診断と治療を学び、現代医学の最新医療について理解する													
学習概要（授業計画） <table border="0"> <tr> <td>1. 臨床病態学序論</td><td>9. 周手術期患者の管理</td></tr> <tr> <td>2. 細胞・組織の障害と修復</td><td>10. 感染症</td></tr> <tr> <td>3～4. 循環障害</td><td>11. 主な診断と主な治療</td></tr> <tr> <td>5～6. 炎症と免疫</td><td>12～13. 腫瘍、移植と再生治療</td></tr> <tr> <td>7. 重症患者の治療</td><td>14. がんの診断と治療</td></tr> <tr> <td>8. 救急患者の治療</td><td>15. まとめ・終講試験</td></tr> </table>		1. 臨床病態学序論	9. 周手術期患者の管理	2. 細胞・組織の障害と修復	10. 感染症	3～4. 循環障害	11. 主な診断と主な治療	5～6. 炎症と免疫	12～13. 腫瘍、移植と再生治療	7. 重症患者の治療	14. がんの診断と治療	8. 救急患者の治療	15. まとめ・終講試験
1. 臨床病態学序論	9. 周手術期患者の管理												
2. 細胞・組織の障害と修復	10. 感染症												
3～4. 循環障害	11. 主な診断と主な治療												
5～6. 炎症と免疫	12～13. 腫瘍、移植と再生治療												
7. 重症患者の治療	14. がんの診断と治療												
8. 救急患者の治療	15. まとめ・終講試験												
学習上の注意 この科目および臨床病態学Ⅰ～Ⅳは、常に関連付けて学習していく													
成績評価の方法 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する													
使用テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院													
参考図書 講義の際に提示													

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師 5 年以上														
授業科目： 臨床病態学Ⅰ (呼吸器、循環器疾患)	単位（時間）： 1 単位（30 時間）														
授業担当：武島玲子／渡辺重行 他	開 講 時 期： 1 年次 後期														
科目の概要・目的 本科目では、呼吸器・循環器における疾患の診断と治療について学習する。心臓や肺は、互いに関連しながら、生命の維持活動を行う大切な臓器であり、症状や、病気のメカニズムを基本から学習する。また、胸部エックス線所見や心電図などの診断方法の基本を学び、フィジカルアセスメントにその知識を活用できるようにする。 酸素化の障害に関連する身体のメカニズムを理解し、呼吸器・循環器疾患の診断・治療に関する基本的な知識を身につけることを目的とする。															
学習の到達目標 1. ガス交換のメカニズムと障害による症状を理解する 2. 心循環と体循環の役割と障害による症状を理解する 3. 心不全、呼吸不全のメカニズムと、診断方法及び経過に伴う治療方法を理解する 4. 救急処置に使用する、機器の作用について理解する															
学習概要（授業計画） <table><tr><td>1. 呼吸器の構造と機能</td><td>7. 循環器の構造と機能</td></tr><tr><td>2. 呼吸器の症状と病態生理</td><td>8. 循環器の症状と病態生理</td></tr><tr><td>3. 呼吸器の検査・治療・処置</td><td>9. 循環器の検査・治療・処置</td></tr><tr><td>4～5. 呼吸器疾患の理解</td><td>10～11. 循環器疾患の理解</td></tr><tr><td>6. 呼吸器の外科的治療法</td><td>12～13. 循環器疾患の内科的治療</td></tr><tr><td></td><td>14. 先天性疾患、その他</td></tr><tr><td></td><td>15. まとめ・終講試験</td></tr></table>		1. 呼吸器の構造と機能	7. 循環器の構造と機能	2. 呼吸器の症状と病態生理	8. 循環器の症状と病態生理	3. 呼吸器の検査・治療・処置	9. 循環器の検査・治療・処置	4～5. 呼吸器疾患の理解	10～11. 循環器疾患の理解	6. 呼吸器の外科的治療法	12～13. 循環器疾患の内科的治療		14. 先天性疾患、その他		15. まとめ・終講試験
1. 呼吸器の構造と機能	7. 循環器の構造と機能														
2. 呼吸器の症状と病態生理	8. 循環器の症状と病態生理														
3. 呼吸器の検査・治療・処置	9. 循環器の検査・治療・処置														
4～5. 呼吸器疾患の理解	10～11. 循環器疾患の理解														
6. 呼吸器の外科的治療法	12～13. 循環器疾患の内科的治療														
	14. 先天性疾患、その他														
	15. まとめ・終講試験														
学習上の注意 生化学、解剖生理学の既習の知識をもとに学習を深める															
成績評価の方法 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する															
使用テキスト <table><tr><td>系統看護学講座</td><td>専門分野Ⅱ</td><td>成人看護学</td><td>呼吸器 2</td><td>医学書院</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>循環器 3</td><td>医学書院</td></tr></table>		系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	呼吸器 2	医学書院				循環器 3	医学書院				
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	呼吸器 2	医学書院											
			循環器 3	医学書院											
参考図書 講義の際に提示															
DVD 講義の際に提示															

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師 5 年以上												
授業科目：臨床病態学Ⅵ（小児・女性生殖器）	単位（時間）：1 単位（30 時間）												
授業担当：重光貞彦／伊部茂晴／太田正康 他	開講時期：1 年次 後期												
科目の概要・目的 本科目では、小児及び女性特有の疾患における診断と治療について学習する。女性の生理に関連した病理的变化を中心に理解し、成人看護学での看護過程につなげる。また、現在における小児疾患の診断と治療法及び、予後について学習し、さらに、出生前診断、合併奇形による予後等、小児の将来の QOL を考慮した治療法に関して学ぶ。 母子に起こりやすい病態を理解し、病変が小児の成長発達、女性のライフサイクルにおよぼす影響について理解することを目的とする。													
学習の到達目標 1. 女性のライフサイクルにおける、生理的な変化に伴う病変について理解する 2. 女性生殖器の疾患の病態および、診断と治療について理解する 3. 小児期の特異な疾患を、発生学・小児期の病態生理を基に理解する 4. 小児の各疾患の、現在の診断・治療法の基礎、予後について理解する 5. 出生前診断、合併奇形による予後など、小児の将来の QOL を考慮した治療等を理解する													
学習概要（授業計画） <table border="0"> <tr> <td>1～4. 生殖器系疾患の診断と治療</td><td>10.小児の内分泌疾患・成長障害・代謝性疾患</td></tr> <tr> <td>5. 性感染症と治療</td><td>11 小児外科の対象となる疾患と治療</td></tr> <tr> <td>6. 出生前疾患・先天異常の診断、治療</td><td>12.小児の泌尿器・生殖器疾患の診断、治療</td></tr> <tr> <td>7. 小児の神経系の疾患と治療</td><td>13.小児の循環器疾患の診断、治療</td></tr> <tr> <td>8. 小児の消化器疾患の診断と治療</td><td>14.小児の血液・造血器疾患、悪性腫瘍の診断、治療</td></tr> <tr> <td>9. 小児の免疫・アレルギー性疾患・呼吸器疾患・感染症の診断、治療</td><td>15.まとめ・終講試験</td></tr> </table>		1～4. 生殖器系疾患の診断と治療	10.小児の内分泌疾患・成長障害・代謝性疾患	5. 性感染症と治療	11 小児外科の対象となる疾患と治療	6. 出生前疾患・先天異常の診断、治療	12.小児の泌尿器・生殖器疾患の診断、治療	7. 小児の神経系の疾患と治療	13.小児の循環器疾患の診断、治療	8. 小児の消化器疾患の診断と治療	14.小児の血液・造血器疾患、悪性腫瘍の診断、治療	9. 小児の免疫・アレルギー性疾患・呼吸器疾患・感染症の診断、治療	15.まとめ・終講試験
1～4. 生殖器系疾患の診断と治療	10.小児の内分泌疾患・成長障害・代謝性疾患												
5. 性感染症と治療	11 小児外科の対象となる疾患と治療												
6. 出生前疾患・先天異常の診断、治療	12.小児の泌尿器・生殖器疾患の診断、治療												
7. 小児の神経系の疾患と治療	13.小児の循環器疾患の診断、治療												
8. 小児の消化器疾患の診断と治療	14.小児の血液・造血器疾患、悪性腫瘍の診断、治療												
9. 小児の免疫・アレルギー性疾患・呼吸器疾患・感染症の診断、治療	15.まとめ・終講試験												
学習上の注意 1. 発生学・小児の生理的特徴、発達の生理等の基礎的知識を整理・予習しておく。 2. 講義の順番は、講師の都合により変更することがある。詳細は後日掲示を参照のこと。													
成績評価の方法 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。													
使用テキスト 1. 新体系 看護学全書 24 成人看護学[11]女性生殖器 メヂカルフレンド社													
参考図書 <table border="0"> <tr> <td>1. 小児看護叢書 第 1 巻～第 5 巻 及川郁子監修</td><td>メヂカルフレンド社</td></tr> <tr> <td>2. プリンシプル産科婦人科学 1</td><td>メヂカルレビュー社</td></tr> <tr> <td>3. プリンシプル産科婦人科学 2</td><td>メヂカルレビュー社</td></tr> </table>		1. 小児看護叢書 第 1 巻～第 5 巻 及川郁子監修	メヂカルフレンド社	2. プリンシプル産科婦人科学 1	メヂカルレビュー社	3. プリンシプル産科婦人科学 2	メヂカルレビュー社						
1. 小児看護叢書 第 1 巻～第 5 巻 及川郁子監修	メヂカルフレンド社												
2. プリンシプル産科婦人科学 1	メヂカルレビュー社												
3. プリンシプル産科婦人科学 2	メヂカルレビュー社												

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上										
授業科目： 看護学概論	単位（時間）： 1 単位（30 時間）										
授業担当： 大槻 解子	開 講 時 期： 1 年次 前期										
科目の概要・目的 看護職は、健康生活支援の専門家として、専門的知識・技術・態度が求められている。 「看護とは何か」「看護職とは何をするのか」看護の歴史や諸理論から幅広く看護学の主たる概念を学習し、実践の科学である看護に対する理解を深め自らの看護観を明確にしていく。 看護の対象である人間理解、健康の概念、看護とは何かについて学び、専門職としての看護のあり方を理解することを目的とする。											
学習の到達目標 1. 看護の発展と看護の定義を理解する 2. 看護の対象を理解する 3. 健康の概念を理解する 4. 看護の目的、役割と機能を理解する 5. 看護者としての看護倫理を理解する											
学習概要（授業計画） <table border="0"> <tr> <td>1. 看護とは何か</td><td>10. 看護の提供者</td></tr> <tr> <td>2～3. 看護の定義</td><td>11. 看護の提供のしくみ</td></tr> <tr> <td>4. 看護の役割と機能</td><td>12～13. 看護の提供者のしくみ</td></tr> <tr> <td>5～7. 看護の対象である人間の理解</td><td>14. 広がる看護の活動領域</td></tr> <tr> <td>8～9. 健康の捉え方と国民の健康状態</td><td>15. まとめ・終講試験</td></tr> </table>		1. 看護とは何か	10. 看護の提供者	2～3. 看護の定義	11. 看護の提供のしくみ	4. 看護の役割と機能	12～13. 看護の提供者のしくみ	5～7. 看護の対象である人間の理解	14. 広がる看護の活動領域	8～9. 健康の捉え方と国民の健康状態	15. まとめ・終講試験
1. 看護とは何か	10. 看護の提供者										
2～3. 看護の定義	11. 看護の提供のしくみ										
4. 看護の役割と機能	12～13. 看護の提供者のしくみ										
5～7. 看護の対象である人間の理解	14. 広がる看護の活動領域										
8～9. 健康の捉え方と国民の健康状態	15. まとめ・終講試験										
学習上の注意 看護学の基礎であり、積極的な態度で学んでほしい											
成績評価方法 出席状況、課題レポート状況、終講試験を総合して評価する											
使用テキスト 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学① 医学書院											
参考図書 基礎看護学概論 メジカルフレンド社											
DVD 1. フローレンス・ナイチンゲール その1、その2											

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上								
授業科目： 共通基本技術 (コミュニケーション・記録・報告・感染予防・指導技術)	単位（時間）： 1 単位（30 時間）								
授業担当： 小森 由美	開 講 時 期： 1 年次 前期								
科目の概要・目的 人間関係を発達させる技術として、コミュニケーション技術が不可欠である。コミュニケーションの手段として、相互のメッセージの意味や感情の理解を深め、信頼関係を築くことが必要になってくる。そのための技法を学ぶことが大切である。 看護師は人々の健康の維持・促進、回復といった過程に関わるため、基本的ケアの一部として観察・記録・報告・教育・指導は切り離すことができない。殊に看護師は、対象の保健指導として、看護を行うために指導する存在となる。それは、看護師が意識していなくても、教育・指導は看護と深く関係している。また、感染予防では、基本的知識・技術を理解し、無菌的な操作が実施できるようにする。感染予防の必要性を学び、病院での物品や患者の使用物、汚染物の取り扱いの知識を学ぶ。 看護活動に共通する基本的看護技術を習得することを目的とする。									
学習の到達目標 1. コミュニケーションの特徴と、医療・看護における重要性を理解する 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、適切なメッセージの伝え方を学ぶとともに、看護記録のための観察のポイントを理解する 3. 感染予防の基礎知識を学ぶことで、感染予防対策を理解し、実施できる 4. 看護における教育的関わりを理解する									
学習概要（授業計画） <table border="0"> <tr> <td>1. コミュニケーションに関する基礎知識</td><td>5～8. 感染管理の基礎知識</td></tr> <tr> <td>2. 看護とコミュニケーション</td><td>9～14. 看護における教育・指導</td></tr> <tr> <td>3. 看護場面における記録と観察の手順</td><td>15. まとめ・終講試験</td></tr> <tr> <td>4. コミュニケーション障害への対応</td><td></td></tr> </table>		1. コミュニケーションに関する基礎知識	5～8. 感染管理の基礎知識	2. 看護とコミュニケーション	9～14. 看護における教育・指導	3. 看護場面における記録と観察の手順	15. まとめ・終講試験	4. コミュニケーション障害への対応	
1. コミュニケーションに関する基礎知識	5～8. 感染管理の基礎知識								
2. 看護とコミュニケーション	9～14. 看護における教育・指導								
3. 看護場面における記録と観察の手順	15. まとめ・終講試験								
4. コミュニケーション障害への対応									
学習上の注意 患者の情報収集をするために必要な技術である。また、患者・スタッフとの会話を成立させるための技術でもある。医療者にとって、感染予防対策は切り離せないものである。感染管理をしていくために、必要な知識・技術は身につけていく。在院日数も短くなっている現状において、退院する患者への退院指導も個々に合わせて作成していく。									
成績評価の方法 出席状況、課題の提出状況、終講試験を総合して評価する									
使用テキスト 看護コミュニケーション ～基礎から学ぶスキルとトレーニング 医学書院 新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社									
参考図書 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ（基礎看護学②） 医学書院 他、授業の中で提示									
DVD 授業の中で提示									

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 看護の共通基本技術	単位（時間）： 1 単位（45 時間）
授業担当： 木植 益弘	開 講 時 期： 1 年次 前期
<学習目的> 看護行為に共通する援助技術について学び、対象を総合的に理解して援助する能力を高める。 <学習目標> 1. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、適切なメッセージの伝え方を学ぶ。 2. 看護における教育的関わりを理解する。 3. バイタルサインの基礎的知識を理解する。 4. 全身状態を系統的に把握する方法を学ぶ。 5. 看護過程の基礎的知識を学ぶ。 6. 倫理的配慮と価値判断について学ぶ。	
学習概要（授業計画） 1. 人間関係を発達させる技術 2. 看護における教育・指導 3. 身体的情報をアセスメントする技術 4. 快適な病床環境をつくる技術 5. 感染防止・安全を確保する技術 6. 安楽促進と呼吸循環を整える技術 7. 看護を展開するための技術 8. 看護ケアの継続をはかる技術	
評価方法 レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）	
テキスト 系統看護学講座 基礎看護技術 医学書院	
備考 本校通信学習	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 成人看護学概論	単位（時間）： 1 単位（45 時間）
授業担当： 澤畠 李恵	開 講 時 期： 1 年次 前期
<学習目的> 成人期にある対象を総合的に理解し、対象とその家族に対して健康の保持・増進および様々な健康レベルでの障害時の看護を実践する能力を養う。 <学習目標> 1. 成人期にある対象を身体的・精神的（霊的を含む）・社会的側面から総合的に理解する。 2. 成人期の健康問題と影響を及ぼす要因を理解する。 3. あらゆる健康状態にある成人期の対象及び家族に対し、看護の方法と役割を理解する。 4. 成人保健の動向および保健システムを理解し、保健医療チームの一員としての役割を理解する。	
学習概要（授業計画） 1. 成人の生活と健康 2. 成人の看護アプローチの基本 3. 成人の健康レベルに対応した看護 4. 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 5. 健康生活の慢性的なゆらぎの再調整を促す看護 6. 障害がある人の生活とリハビリテーション	
評価方法 レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）	
テキスト 系統看護学講座 成人看護学 1～15 医学書院	
備考 本校通信学習	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 母性看護学方法論	単位（時間）： 1 単位（45 時間）
授業担当： 大川 加奈	開 講 時 期： 1 年次 前期
<学習目的> 助産の生物学的、心理・社会・文化的側面を重視するウイメンズヘルスの視点から、女性一人一人の理想とするウェルネスをとらえるとともに、女性のライフスタイルにおける女性の健康問題と健康生活を営むための看護実践に必要な基礎的能力を養う。職人・家族・地域と多様なコミュニティにおいて求められる援助・支援について理解する。 <学習目標> 1. 生殖に関わる看護について学ぶ。 2. 正常な経過にある妊産褥婦・新生児の特性と看護について学ぶ。 3. 異常経過にある妊産褥婦・新生児の看護と怒りやすい問題について理解する。 4. 妊産褥婦・新生児の看護過程の展開について理解する。	
学習概要（授業計画） 1. 母性看護の対象理解 2. 女性のライフステージ各期における看護 3. 出征前からのリプロダクティブヘルスケア 4. 妊娠期における看護 5. 分娩期における看護 6. 産褥期における看護 7. 妊娠・分娩・新生児・産褥期の異常 8. 母性看護に必要な看護技術	
評価方法 レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）	
テキスト 系統看護学講座 母性看護学 1・2 医学書院	
備考 本校通信学習	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5 年以上
授業科目： 看護管理	単位（時間）： 1 単位（45 時間）
授業担当： 川又 光子	開 講 時 期： 1 年次 後期
<学習目的> 医療チームの一員としてのあり方を実際の臨床場面をもとに考えることで、チーム医療・看護ケアにおける看護としてのマネジメントができる基礎的能力を養う。 <学習目標> 1. チーム医療の中の多職種との連携・協働の必要性と実際に理解できる。 2. 看護における管理の意味と必要性が理解できる。 3. 看護サービスにおける看護管理が理解できる。 4. 諸制度と看護管理について理解できる。 5. マネジメントに必要な知識と技術が理解できる。	
学習概要（授業計画） 1. 看護を取り巻く諸制度 2. 看護管理とは 3. 病院の中でのチーム医療の実際 4. 看護におけるマネジメント 5. 看護サービスと看護管理 6. 安全管理 7. 労務管理	
評価方法 レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）	
テキスト 系統看護学講座 看護管理 医学書院	
備考 本校通信学習	